

7 地域まちづくりの推進

ここでは、戦略的まちづくりを支えるしくみとしての地域まちづくりについて、概要、まちづくりの構想づくり、実践のしくみを示します。

● 概 要

地域まちづくりとは、“地域がより良くなるために、地域の力（考え）で地域を育てること” であると考えます。

これまでは、道路や公園などの公共施設の整備といった行政主体のハードを中心としたまちづくりや、建築物に関する面的な規制・誘導など全市的な視点からのまちづくりが進められてきました。

今後は、上記の取り組みに加え、地域ごとの強みや弱み（魅力や課題）を踏まえ、計画・ルールづくりから、将来にわたる施設の管理やまちづくり活動など、地域の方々によるまちづくりもあわせて進めていくことが、これまで以上に必要であると考えます。

1 目 的

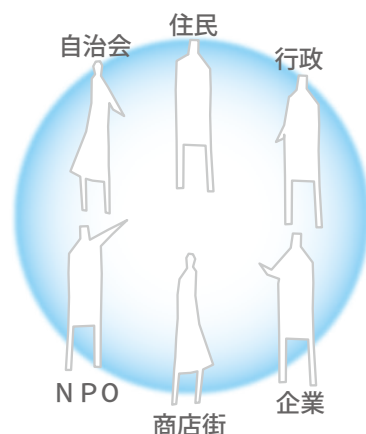
地域まちづくりの目的は、地域の方々（現在または将来、地域に住み・働き・憩うの方々）にとって、より良い環境を築きあげることです。

2 内 容

地域まちづくりの内容は、多様な主体（住民、自治会、NPO、商店街、企業、行政等）が、役割分担を明確にしつつ取り組む「まちづくりの構想＊づくり」とその「実践」です。

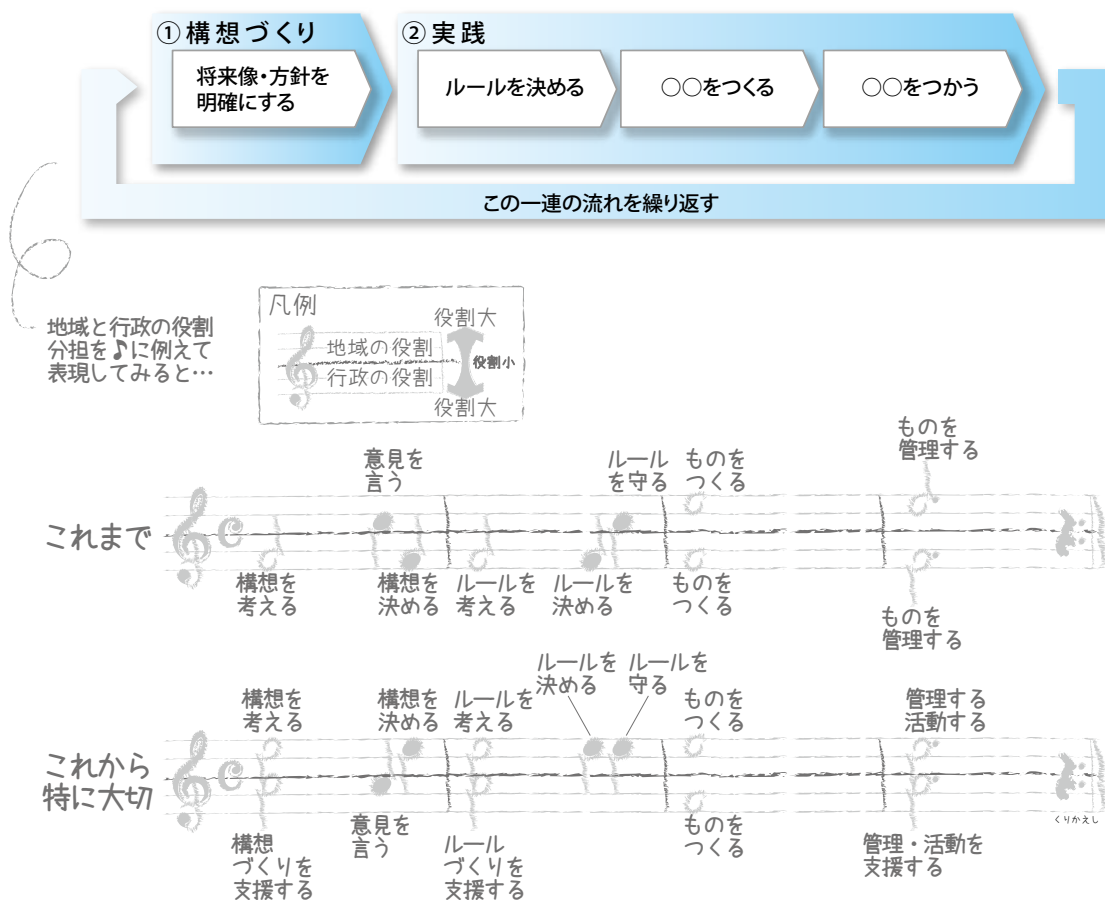
＊「まちづくり構想」は、共通認識を箇条書きしたもののから、図面化したものまで、幅広く捉えています。詳細は次のページ以降をご覧ください。

地域まちづくりの多様な主体



3 地域まちづくりのイメージ

地域まちづくりは、①構想づくり→②実践→①構想づくり→②実践...といった流れを長期的に継続していくことが必要です。イメージ図は下記のとおりです。



● まちづくりの構想づくり

まちづくり構想とは、地域まちづくりを多様な主体の参画のもとにすすめていくために共有する、地域の「将来像」とその実現のための「方針」です。

1 まちづくり構想の意義

まちづくり構想の意義は、下記の2点です。

地域のまちづくりの方向性がひとつになり、活動がより活発化します

地域と行政の思いが共有でき、地域のまちづくりが効果的・効率的にすすみます

2 まちづくり構想の例

まちづくり構想の例は下記のとおりです。具体例のほかにも、さまざまなまちづくり構想が考えられます。

まちづくり構想の例1

- テーマ 住宅地の景観
- エリア いくつかの街区にまたがる範囲
- 将来像 「私たちの住宅地を緑や花がいっぱいある明るいまち並みにしよう」
- 方針
 - ・高い塀をつくるのをやめて庭の緑が見えるようにしよう
 - ・通りから見える場所に生垣や花壇などをつくろう
 - ・建物の色彩を明るい色で統一しよう
 - ・建物の高さを制限しよう など

構想のボリューム
のイメージ

- テーマ ……
- エリア ……
- 将来像 ……
- 方針 ……
- ……

まちづくり構想の例2

- テーマ まちの防災性の向上
- エリア 複数の町内会や学区にまたがる範囲
- 将来像 私たちのまちは木造の密集住宅地だから地震や火災が心配。
「災害に強いまちづくりをしよう」
- 方針
 - ・狭あい道路の拡幅や、空家の除却などを進めよう
 - ・みんなで協力して、避難地や避難路周辺の建物の耐震化や不燃化を進めよう
 - ・安全に避難できるように避難ルートマップをつくろう
など

構想のボリューム
のイメージ

- テーマ ……
- エリア ……
- 将来像 ……
- 方針 ……
- ……

まちづくり構想の例3

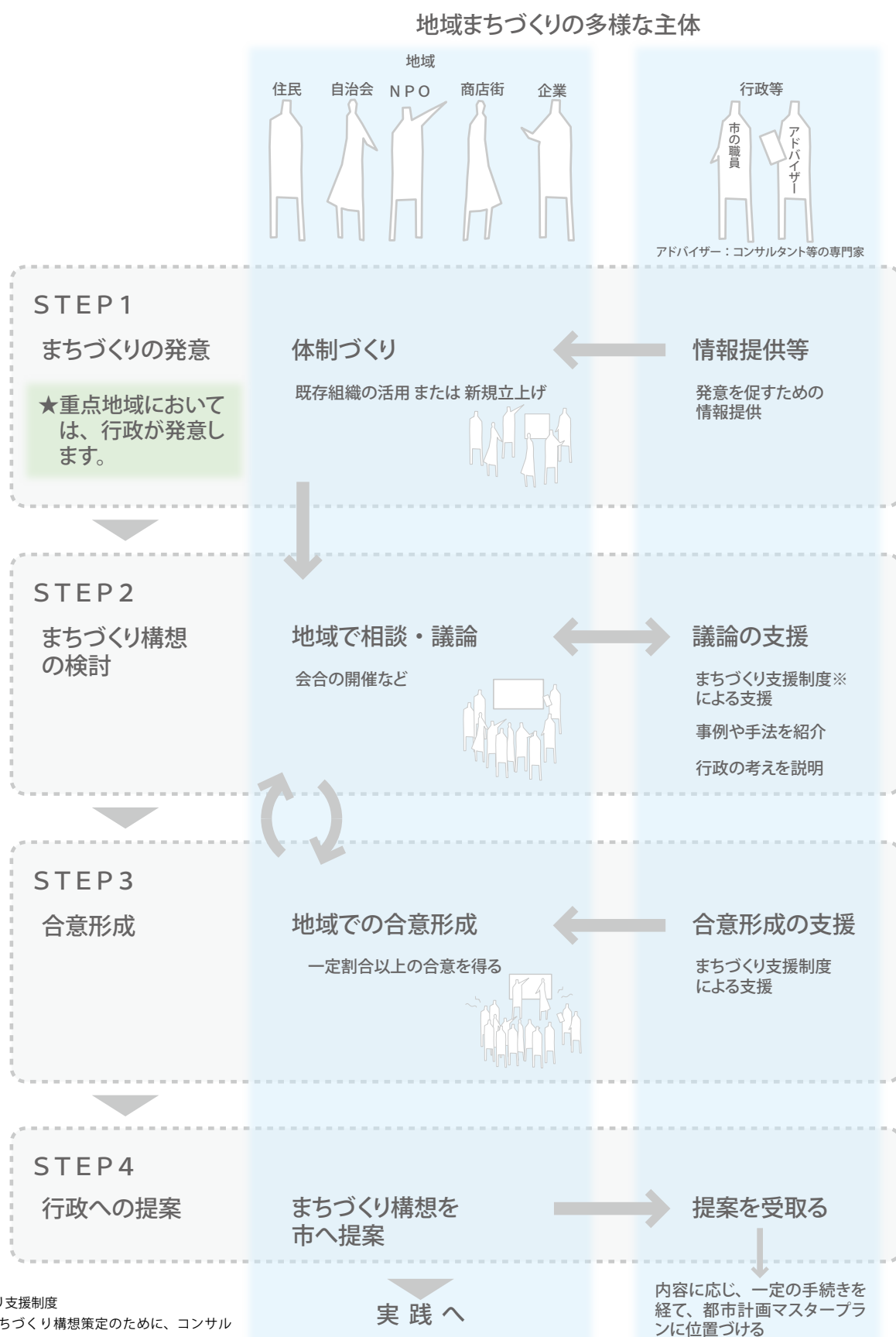
- テーマ 駅直近の歩行者環境の改善
- エリア 駅周辺部
- 将来像 私たちのまちの駅周辺の道路は車がいっぱい。
「歩行者が安全に歩けるまちにしよう」
- 方針
 - ・駅周辺部では車の通り抜けを減らそう
 - ・違法駐車をやめさせるなどドライバーのマナーを向上させよう
 - ・公共交通機関を使って買い物に来た人に特典を付けよう
など

構想のボリューム
のイメージ

- テーマ ……
- エリア ……
- 将来像 ……
- 方針 ……
- ……

3 役割分担とまちづくりの構想づくりの流れ

地域まちづくりの多様な主体による役割分担とまちづくりの構想づくりの具体的な流れは、下記のとおりです。



● 実践のしくみ

地域まちづくりの多様な主体による「まちづくり構想」を実践するための具体的な流れは、下記のとおりです。まちづくり構想の実践により、めざすべき地域ごとの目標と多様な主体の役割分担を明確にした行動計画をつくり、進行を管理していくことが有効です。

地域まちづくりの多様な主体



STEP 1

行動計画づくり

順位づけと役割分担

行動する内容の優先順位づけ

地域の行動と行政の行動を役割分担

役割分担

行政の役割を調整

STEP 2

実践

ルールづくり

施設整備

活動

地域の行動を実践

地域でのルールづくり
地区計画や建築協定等の検討・提案

地域でできる施設整備の実践

地域による施設利用や管理など
さまざまな活動の実践

行政の行動を実践

都市計画手続の実践

公共施設整備の実践

まちづくり支援制度
による支援等

STEP 3

進行管理

地域の行動の進捗状況・
改善点の検証

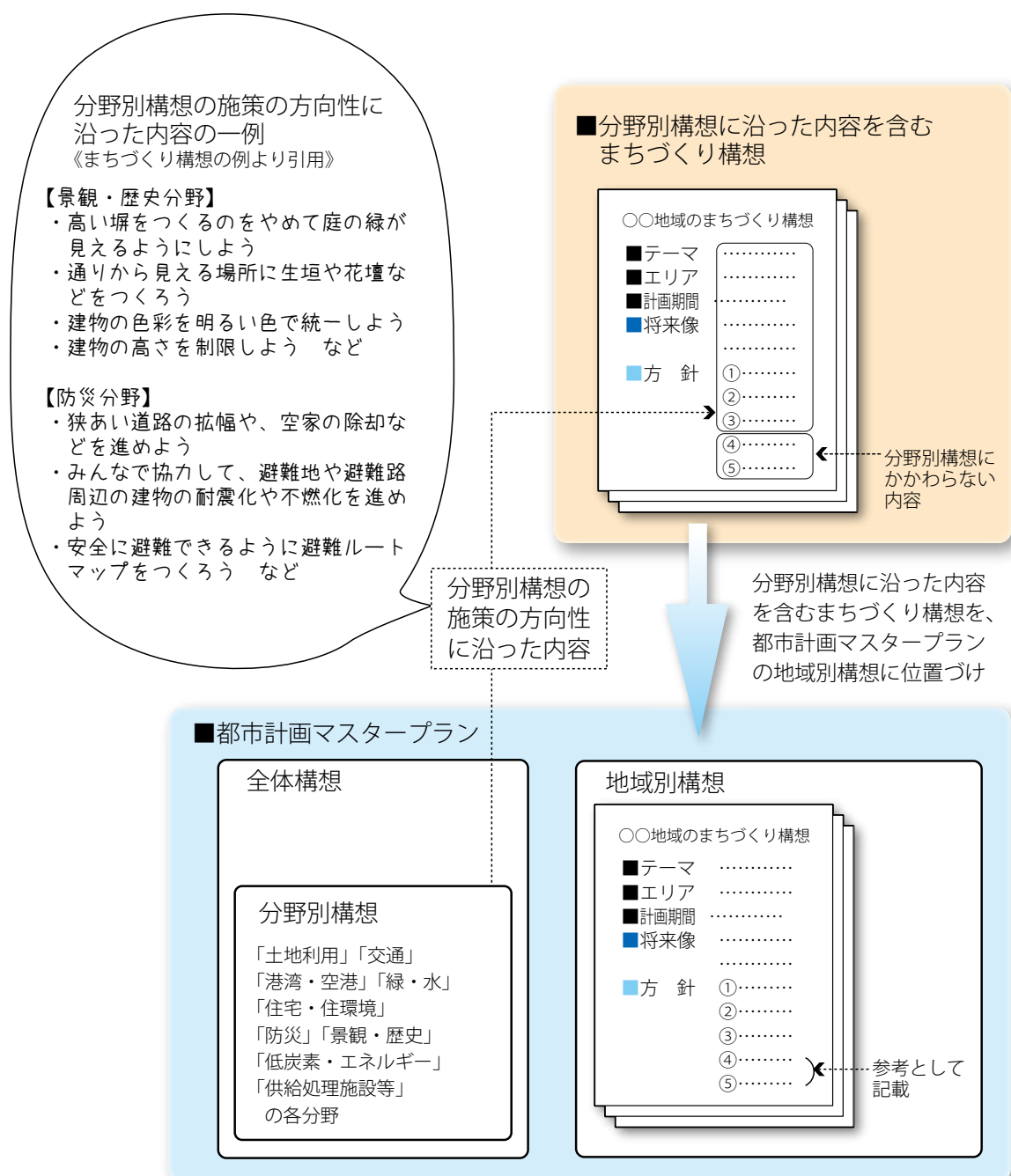
行政の行動の
進捗状況の報告

● 都市計画マスタープランへの位置づけ (地域別構想策定のイメージ)

地域がつくった「まちづくり構想」のうち、分野別構想の施策の方向性に沿った内容を含む構想を、都市計画マスタープランの「地域別構想」に位置づけます。

都市計画マスタープランに位置づけることで、まちづくり構想がその地域における都市計画上の指針となり、具体的なまちづくりや開発事業の推進力となることが期待されます。

まちづくり構想と都市計画マスタープランの地域別構想との関係は、下記のとおりです。



8 評価・見直しの方針

ここでは、評価指標とPDCAを示します。

● 評価指標

都市計画マスタープランでは、長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示しています。今後、まちづくりをすすめる中でその評価を行い、次期都市計画マスタープランの検討に反映していきます。

評価は、まちづくりの方針（都市構造）に対応する指標を下記のとおり設定し行います。

めざすべき都市の姿	まちづくりの方針（都市構造）	評価指標【 】は現況値
人・まち・自然がつながる交流・創造都市	集約連携型都市構造の実現	駅そば生活圏人口比率※ 70%【67%】 H32 H22

※駅そば生活圏人口／全市人口

なお、分野別構想の「交通」「緑・水」「住宅・住環境」「低炭素・エネルギー」については、関連する個別計画等において、いくつかの達成目標を設定しています。都市計画マスタープランに関連がある達成目標のうち1つを抜粋して、参考に記載します。

分野別構想	個別計画名	達成目標（抜粋）【 】は現況値
交通	なごや新交通戦略推進プラン	市内の鉄道及び市バス1日あたり乗車人員合計 239万人【227万人】 H32 H21
緑・水	なごや緑の基本計画2020	緑被率 27%【23.3%】 H32 H22
住宅・住環境	住生活基本計画	駅から500m圏内の居住世帯のある住宅の割合 37%【34.4%】 H30 H20
低炭素・エネルギー	低炭素都市なごや戦略実行計画	低炭素モデル地区 2地区程度【0地区】 H32 H22

● PDCA

都市計画マスタープランのP（Plan：計画）、D（Do：実施）、C（Check：評価）、A（Action：見直し）は、下記のとおりです。

中間年次および目標年次（2020年）において「評価指標」（前ページの表の網かけ部分）により評価を行います。また、関連する個別計画の達成状況を参考にしながら下表の「まちづくりの方針」の妥当性を検証し、次期都市計画マスタープランの検討をすすめます。

めざすべき都市の姿	まちづくりの方針
やすらぎのある暮らし	暮らしやすさを実感できる「安心・安全・便利な生活環境づくり」
ときめきのある暮らし	名古屋大都市圏を牽引する「交流・創造的活動の場づくり」
うるおいのある暮らし	持続可能な社会を支える「低炭素・自然共生都市づくり」

